漁況海況予報事業

赤羽　光秋・十三　邦昭・中田　凱久・仲村　俊毅
中川　賢三・天野　勝三・涌坪　敏明・兜森　良則
黄金崎　栄一・佐々木　武三

発表誌名

昭和60年度　漁況海況予報事業結果報告書

抄録

I　海況

1. 日本海

対馬暖流域の表面水温は、おおむね平年並で推移したが、100 m層水温は低めの状態が持続していた。対馬暖流の北上流量は平年より少なめであり、弱勢傾向が続いた。

2. 太平洋

津軽暖流は平年に比べ、夏季までは弱勢、初冬には強勢に転じた。親潮系水は、これに呼応して、3月には沿岸寄りにあり、かつ水温も平年に比べ低かったが、徐々に後退し、11月には本県定線観測範囲内にはほとんど分布しなかった。黒潮系北上暖水は例年になく沿岸寄りを北上し、結果としてアカイカ漁場が沿岸寄りに形成されることとなった。

II　漁況

漁況にみられた大きな特徴は、近海スルメイカの不振であった。日本海では対前年比75％にとどまったが、太平洋は同じく18％、津軽海峡では7％と極度の不振であった。しかし、沖合スルメイカを含めた全体では対前年比85％であった。

一方、アカイカは比較的好調で、一本釣、流し網ともに前年を上回った。これは、アカイカの回遊が例年になく沿岸寄りであったため、不振のスルメイカに替えて、アカイカに対する漁獲努力が増したためと思われる。